

2012年3月期 第3四半期決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社

2012年1月31日

代表取締役社長 赤尾 泰

エグゼクティブサマリー

I . 2012年3月期 第3四半期決算概要

- 市況の悪化やタイ洪水影響などにより売上高は想定を下回るものの、営業損益は原価改善や費用削減施策により第2四半期比改善

II . 2012年3月期 通期業績予想

- 市況悪化の継続やタイ洪水影響の顕在化などにより、売上高は前回予想を大幅に下回る見込み
- 売上減に対し、生産効率化や更なる費用削減施策を遂行するも、下期の営業損益及び当期純損益の黒字達成は困難な状況

I. 2012年3月期 第3四半期決算概要

2012年3月期 第3四半期(10-12月期)決算概要

- 半導体売上高は、欧州や中国を中心とした市況悪化による需要減やタイ洪水影響などにより、前四半期比9%減の1,980億円と想定を下回った
- 一方、営業損益・四半期純損益は、売上減による利益減を、原価改善や費用効率化などでカバーし、前四半期比改善

2011年3月期

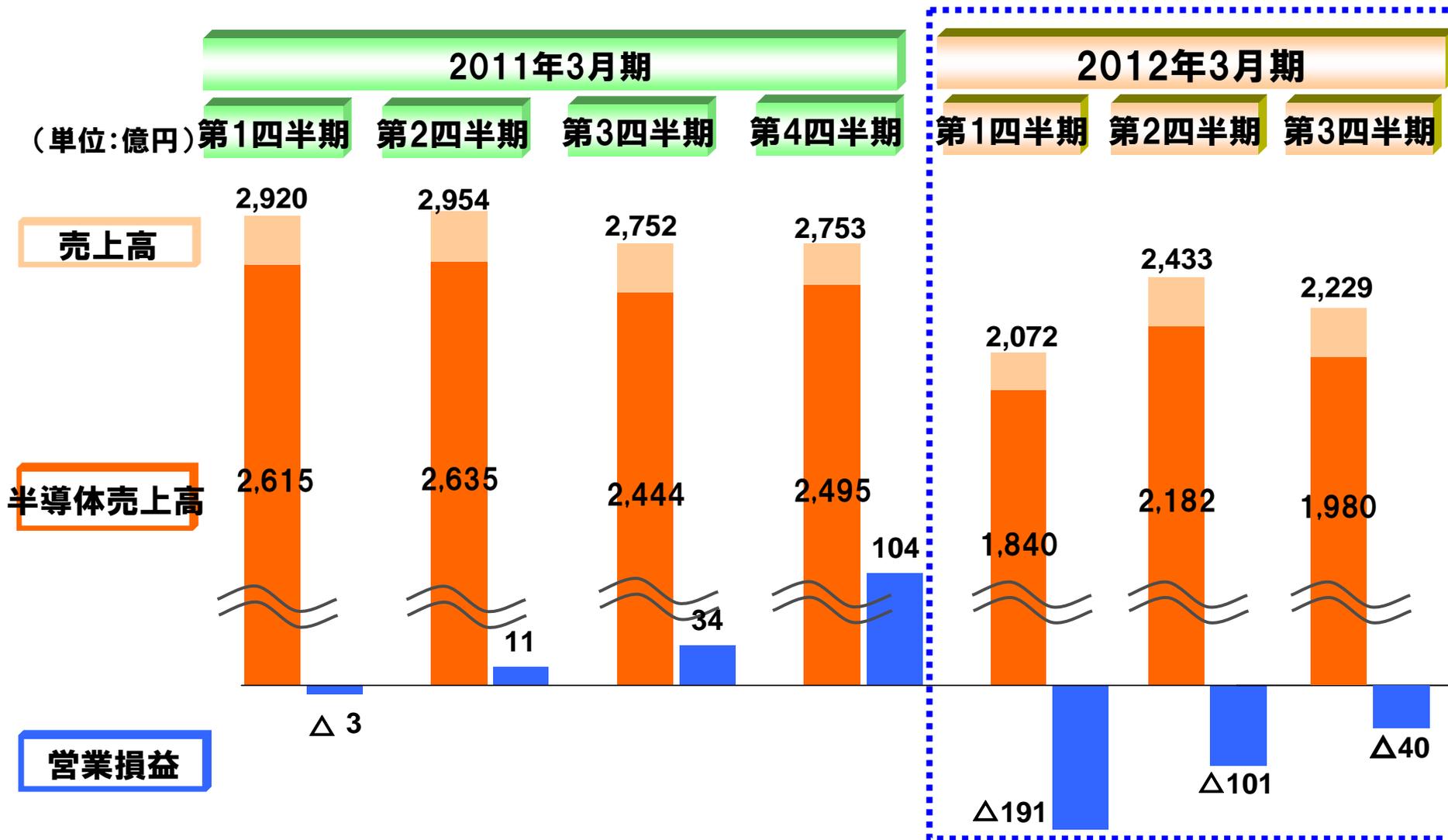
2012年3月期

(単位:億円)

	第3四半期	第2四半期	第3四半期	前四半期比	前年同期比
売上高	2,752	2,433	2,229	△205 (△8%)	△523 (△19%)
半導体売上高	2,444	2,182	1,980	△202 (△9%)	△464 (△19%)
営業損益	34	△101	△40	+61	△74
経常損益	11	△131	△36	+95	△47
四半期純損益	△176	△88	△24	+64	+152
1US\$=	83円	79円	77円	2円 円高	6円 円高
1ユーロ=	112円	113円	105円	8円 円高	7円 円高

四半期業績推移

■ 市況悪化などにより売上は伸び悩むも、震災を乗り越え損益は改善傾向



2012年3月期 第3四半期 半導体売上高の事業別状況①

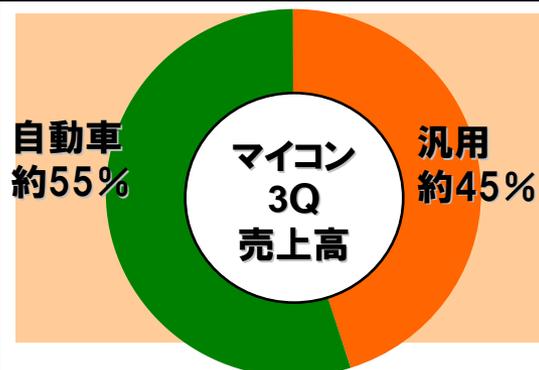
- 欧州や中国を中心とした市況悪化やタイ洪水影響などにより、3事業とも民生・PC周辺機器・産業向け製品の売上が減少
- マイコンについては、自動車向けの伸びが牽引し、前四半期比で増収を確保

2011年3月期

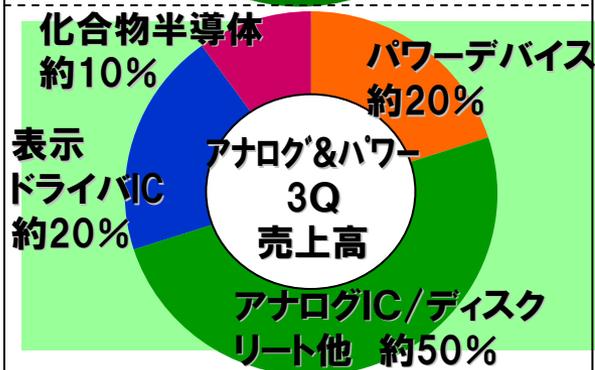
2012年3月期

(単位:億円)	2011年3月期		2012年3月期		
	第3四半期	第2四半期	第3四半期	前四半期比	前年同期比
半導体売上高 計	2,444	2,182	1,980	△202 (△9%)	△464 (△19%)
マイコン	939	875	886	+12 (+1%)	△52 (△6%)
アナログ&パワー 半導体 (A&P)	730	672	545	△127 (△19%)	△184 (△25%)
SoC	761	632	534	△98 (△15%)	△227 (△30%)
その他半導体	15	3	14	+11	△1

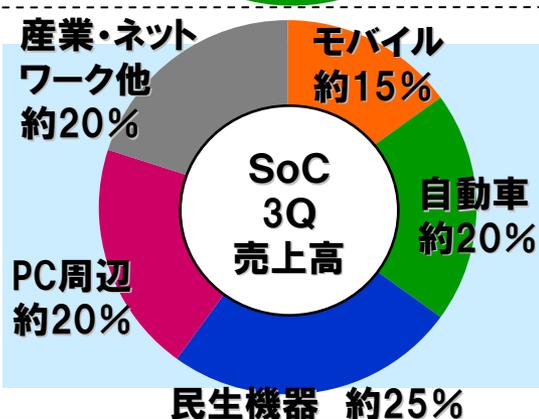
2012年3月期 第3四半期 半導体売上高の事業別状況②



- 汎用マイコンは、欧州財政不安や中国金融引き締めを背景に、欧州・中国向けの民生・産業分野を中心に想定以上に減速し、前四半期比10%売上減。タイ洪水影響も民生向け売上減に拍車
- 自動車マイコンは、タイ洪水影響により想定を下回るものの、日系自動車メーカーの増産が牽引し、前四半期比で10%以上の売上増



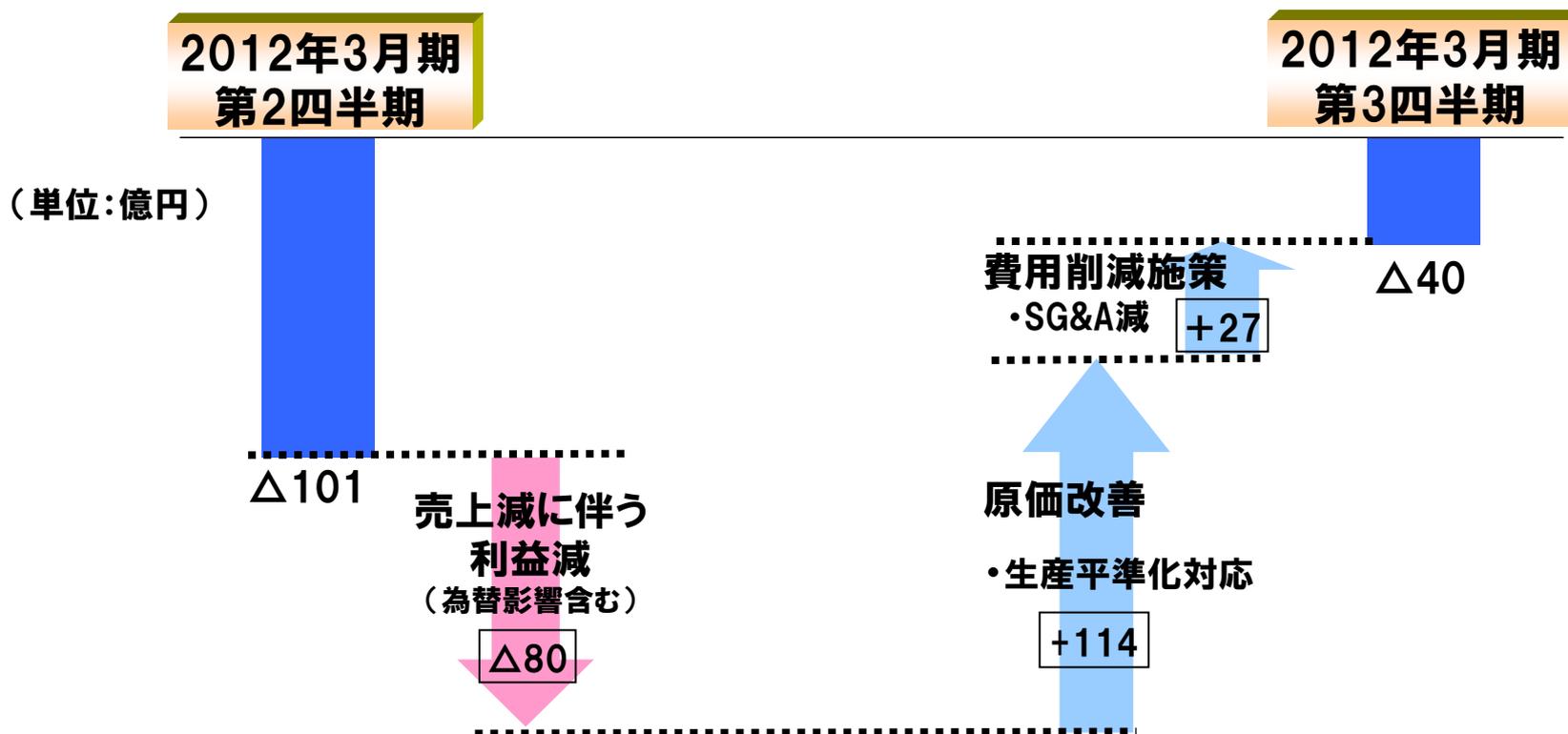
- 自動車向けパワーデバイスとアナログICは、日系自動車メーカーの生産回復に伴い前四半期比で売上増なるも、PCなどその他用途向けでは、中国をはじめとした景気減速やタイ洪水の影響を受け、想定比・前四半期比ともに売上大幅減
- 表示ドライバICは、中小型パネル向けが引き続き好調なるも、大型向けの不振は進み、前四半期比で売上減



- モバイル向けは、スマートフォン向けベースバンドプロセッサの出荷が増えたが、従来型携帯電話向け半導体の落ち込みが大きく、低水準の売上で推移
- 自動車向けは、震災からの復旧需要で前四半期比で売上大幅増
- 民生・PC周辺機器向けは、テレビなど一部事業の縮小と市況悪化の両面により、前四半期比で売上減

2012年3月期 第3四半期営業損益（前四半期比）

- 売上減に伴う利益減を、生産効率化や販売費及び一般管理費の削減などの費用削減施策によりカバーし、営業損益は第2四半期比で改善



*SG&A:販売費及び一般管理費

バランスシートの状況

(単位:億円)	11/3末	11/9末	11/12末
総資産	11,450	9,177	9,017
うち 現金及び現金同等物	3,373	1,583	1,578
うち たな卸資産	1,234	1,386	1,577
負債合計	8,540	6,799	6,654
うち 有利子負債	3,782	2,656	2,633
株主資本	3,060	2,640	2,616
純資産合計	2,911	2,379	2,363
D/Eレシオ(グロス)	1.33倍	1.15倍	1.15倍
D/Eレシオ(ネット)	0.14倍	0.47倍	0.46倍
自己資本比率	24.8%	25.1%	25.3%

(注)①現金及び現金同等物:「現金及び預金」と「有価証券」の単純合算値から「預入期間が3ヶ月を超える定期預金」を控除しております。
 ②有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「1年内償還予定の新株予約権付社債」、「リース債務」、「長期借入金」
 ③自己資本:「株主資本」、「その他の包括利益累計額」 ④D/Eレシオ(グロス):有利子負債/自己資本

キャッシュ・フローの状況

■ 第3四半期のフリー・キャッシュ・フローは黒字を確保

2011年3月期

2012年3月期

(単位：億円)	2011年3月期			2012年3月期			
	第3四半期	9ヶ月累計 (4-12月)	通期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	9ヶ月累計
営業活動による キャッシュ・フロー	539	869	1,025	△292	80	180	△31
投資活動による キャッシュ・フロー	△390	△718	△958	△148	△178	△152	△477
フリー・ キャッシュ・フロー	150	151	67	△440	△97	29	△508

II. 2012年3月期 通期業績予想

2012年3月期 通期 連結業績予想

- 市況悪化の継続やタイ洪水影響の顕在化などにより、通期の売上高を下方修正
- 売上減に対し、生産効率化や更なる費用削減施策を進めるものの、下期の営業損益、当期純損益は赤字となる見込み

(単位:億円)	2011年3月期	
	上期実績	通期実績
売上高	5,875	11,379
半導体売上高	5,250	10,189
営業損益	7	145
経常損益	△78	10
当期純損益	△412	△1,150
1US\$=	90円	86円
1ユーロ=	116円	114円

2012年3月期				
上期実績	下期見通し	通期見通し	通期前回予想	前回予想比 (前期比)
4,506	4,344	8,850	9,680	△830 (△2,529)
4,022	3,858	7,880	8,710	△830 (△2,309)
△292	△188	△480	△280	△200 (△625)
△333	△207	△540	△370	△170 (△550)
△420	△150	△570	△400	△170 (+580)
81円	78円		78円	—
115円	100円		105円	5円 円高

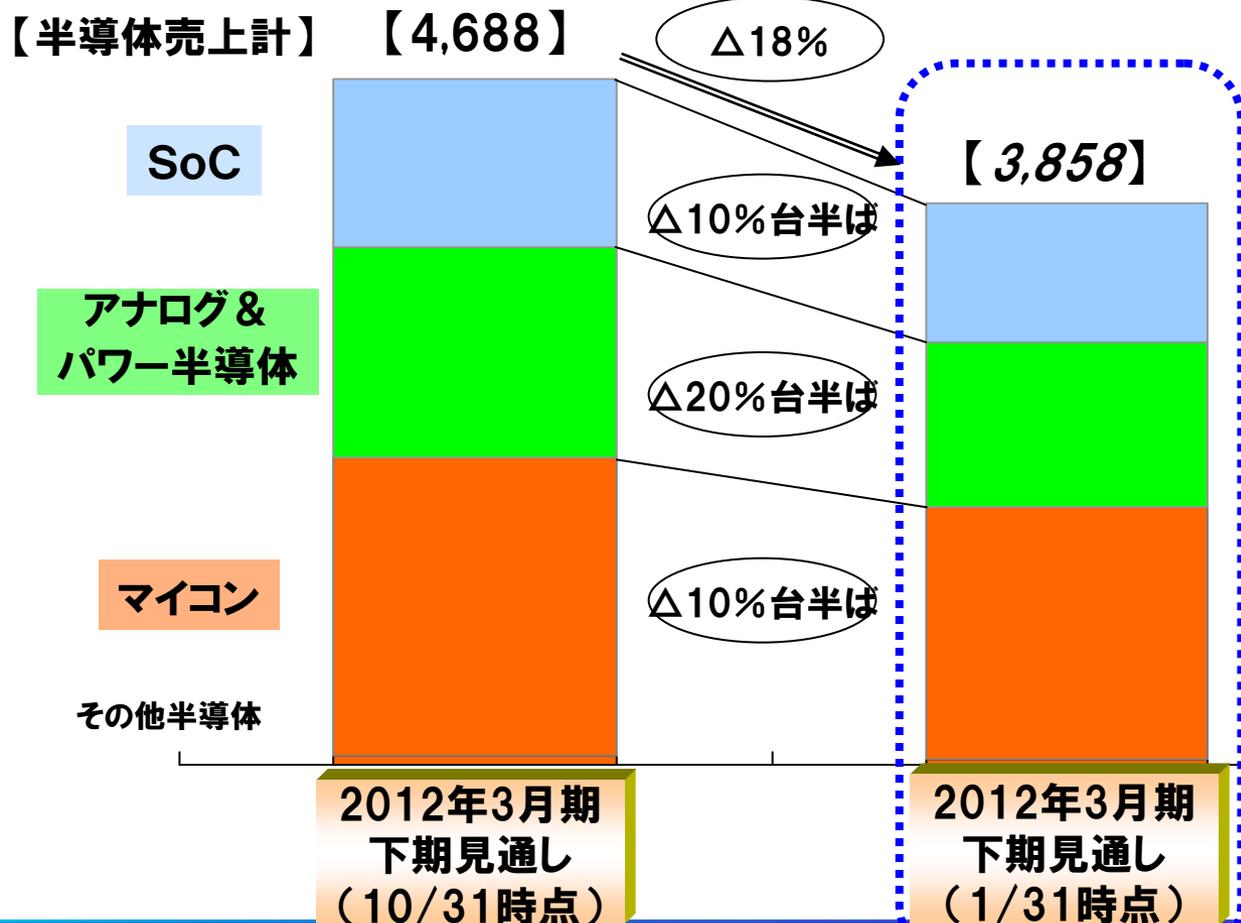
第4四半期為替前提

*前回予想は10/31の
第2四半期決算発表時点

2012年3月期 下期半導体売上見通し（前回予想比）

■ 顕在化したタイ洪水影響△約200億円と、欧州や中国を中心に想定以上の速度で進んだ市況悪化に伴う需要減により、前回予想比で売上が△830億円の見込み

（単位：億円）

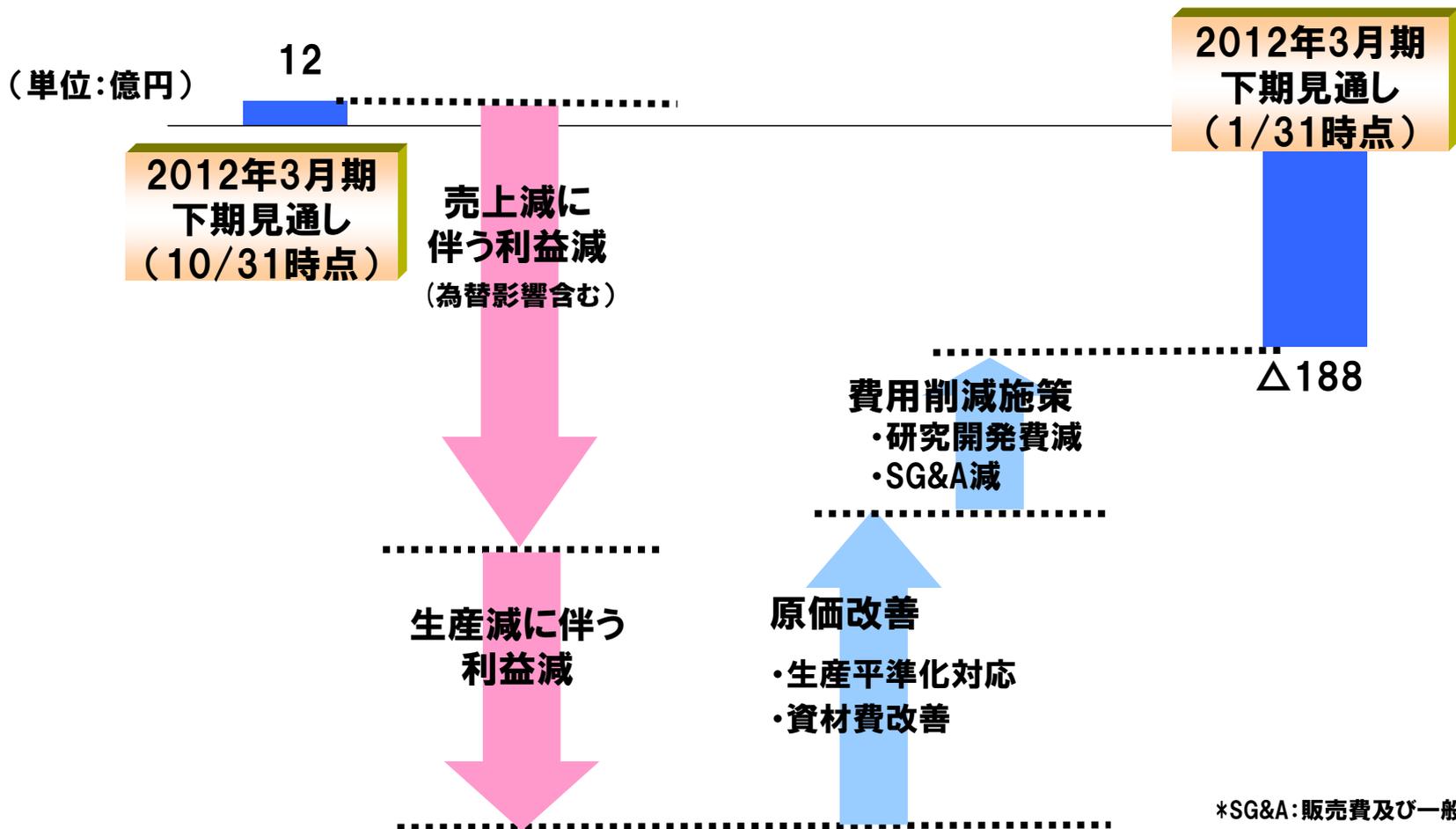


主な減収要因

- ・タイ洪水影響△約50億円
 - 民生/自動車/産業/PC向けSoC
- ・需要減
 - 民生/産業向けSoC (特に欧州/中国/日本)
 - モバイル向けIC
- ・タイ洪水影響△約50億円
 - 民生/PC/自動車向けパワーデバイス及びアナログ・ディスクリート
- ・需要減
 - PC/民生/産業向けパワーデバイス及びアナログ・ディスクリート(特に中国)
 - 産業・ネットワーク機器向け化合物
 - TV等大型パネル向け表示ドライバIC
- ・タイ洪水影響△約100億円
 - 民生/自動車/産業向けマイコン
- ・需要減
 - 民生/産業向けマイコン (特に欧州/中国/日本)

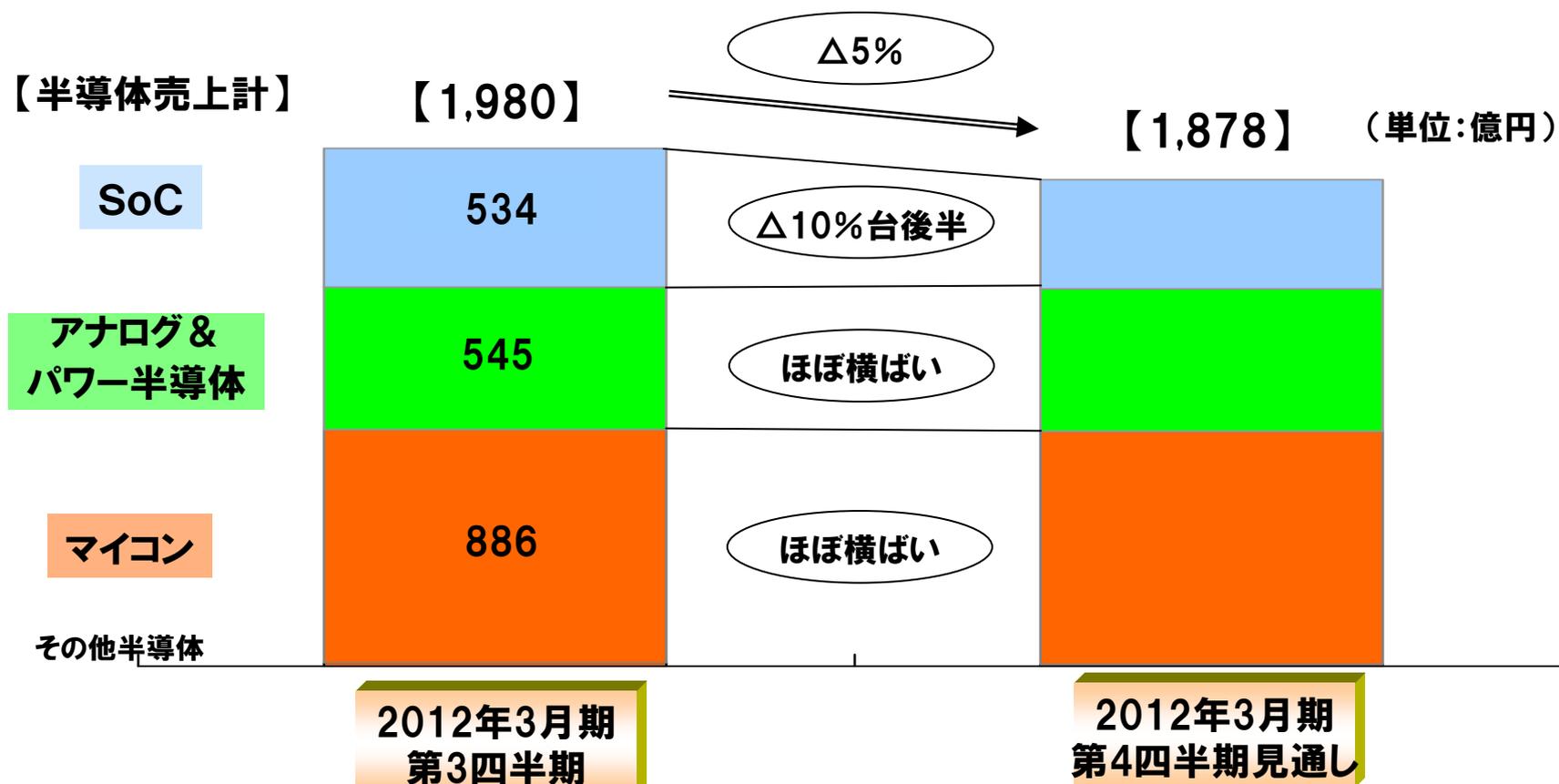
2012年3月期 下期営業損益見通し（前回予想比）

- 市況悪化継続やタイ洪水影響などによる需要減により、売上減に伴う利益減や、生産減に伴う利益減を見込む
- 更なる費用削減施策なども遂行するが、下期の営業損益は△188億円の赤字となる見込み



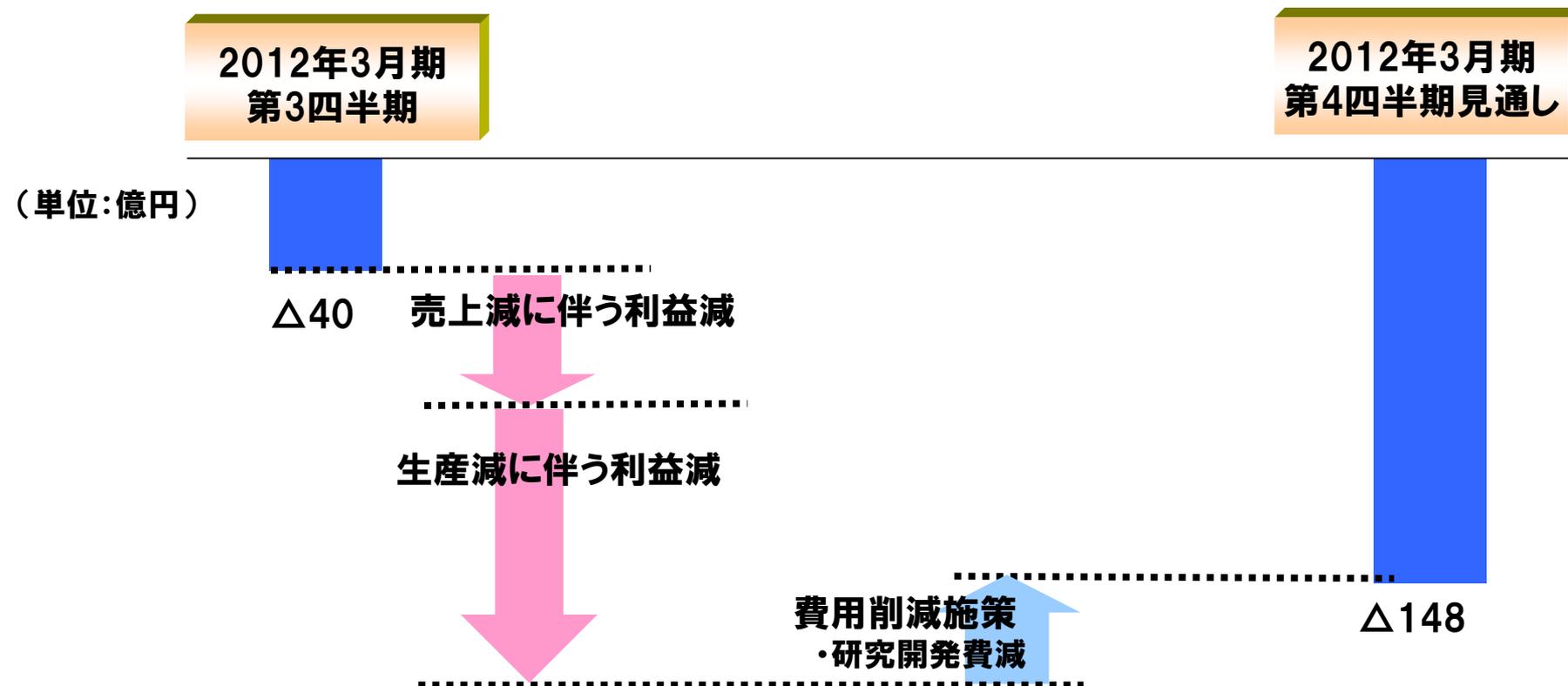
2012年3月期 第4四半期半導体売上見通し（前四半期比）

- 自動車向けは堅調なるも、マクロ経済の悪化に伴う汎用製品を中心とした需要軟化が続き、マイコン、アナログ&パワー半導体は前四半期比でほぼ横ばい
- SoCは、市況悪化だけでなく、事業の選択と集中により売上減の見込み



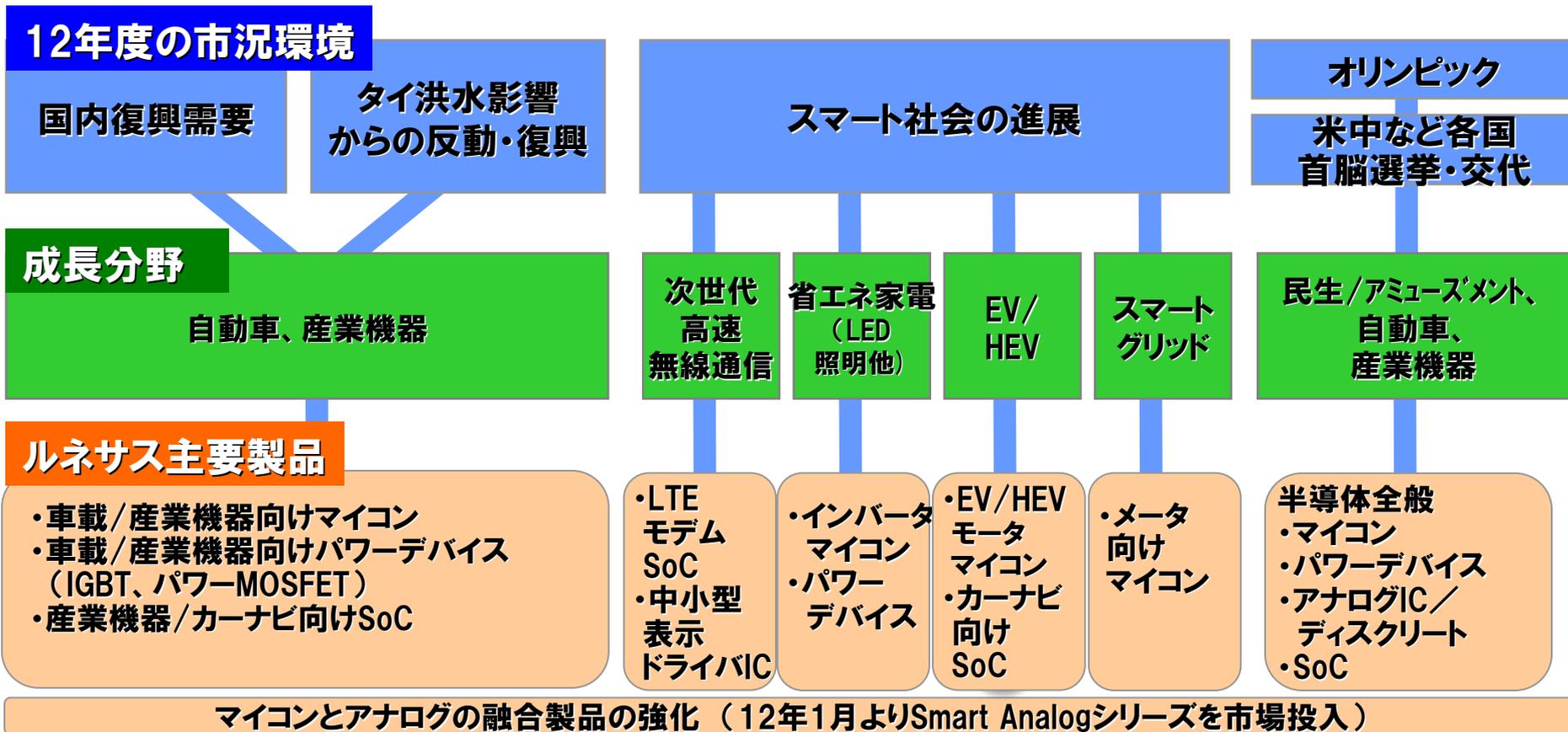
2012年3月期 第4四半期営業損益見通し（前四半期比）

- 市況の悪化による需要減が続くことで、生産減に伴う利益減が拡大
- 通常は期末に集中する研究開発費などの費用計上の抑制を図るものの、第4四半期の営業損益は△148億円に悪化する見込み



業績の改善に向けて（1）12年度以降の期待製品・分野

- 12年度の市況環境を展望すると、成長を期待できる分野が数多く潜在
- これら成長分野に対する選択と集中を加速し、利益確保可能な売上規模を獲得



*EV: Electric Vehicle、HEV: Hybrid Electric Vehicle、NFC: Near Field Communication

業績の改善に向けて（２）マイコンとパワーデバイスの強化

- 成長分野に向けて、マイコンとパワーデバイスのラインアップを強化
- マイコン：中国市場向けに3年間で1,000製品投入の計画、11年度末までに約7割市場投入予定
- パワーデバイス：高圧品を中心に3年間で1,000製品投入の計画、11年度末までに約7割市場投入予定

2010～2012年度 分野別市場投入予定製品数

省エネ家電



住宅環境
(ホームセキュリティ等)



社会インフラ



自動車
(EV/HEV, e-Bike)



マイコン

600製品

200製品

100製品

100製品

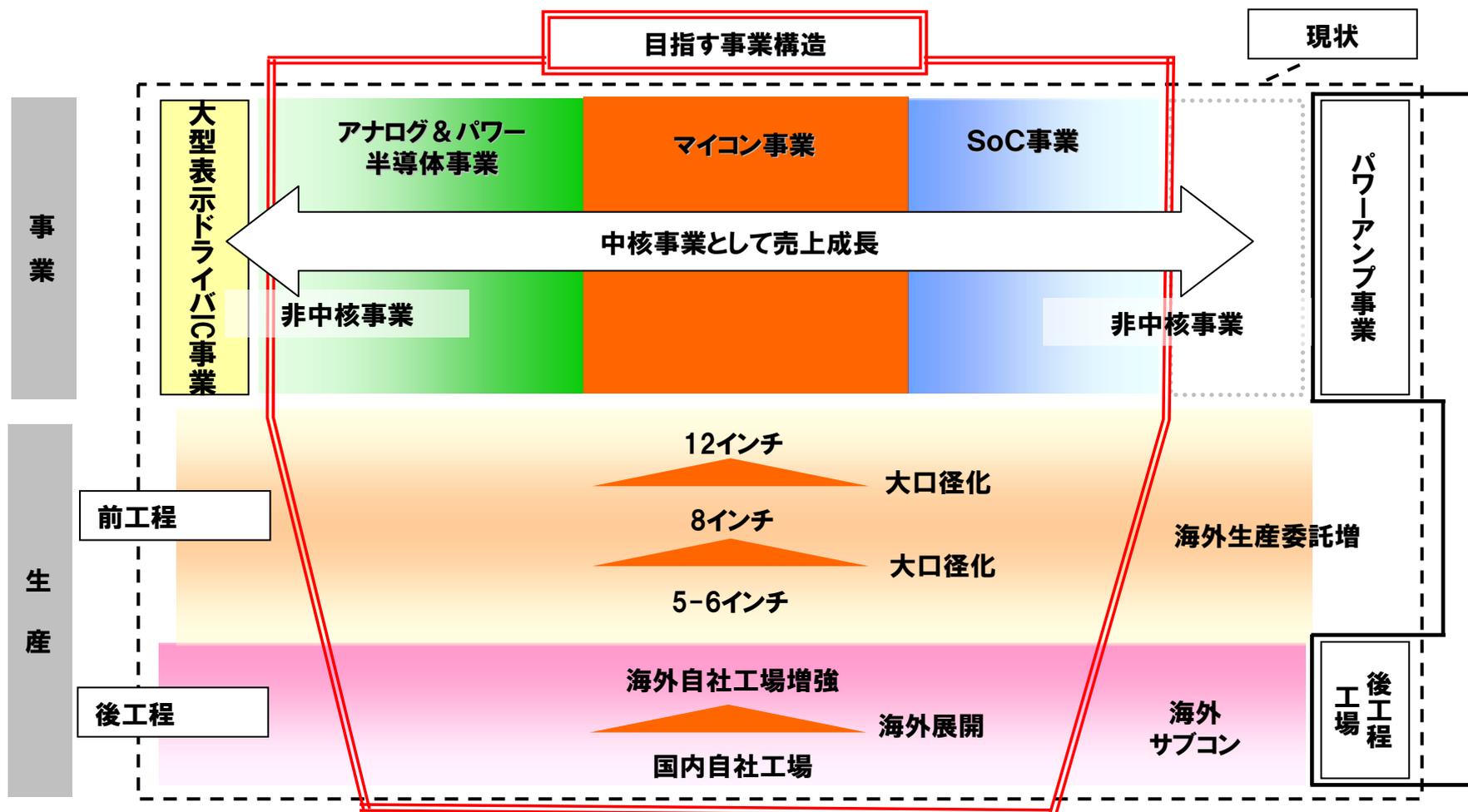
パワーデバイス

汎用製品：700製品

300製品

業績の改善に向けて（3）事業・生産構造対策

- TV等フラットパネル市場の構造変化による採算悪化が続いていた大型表示ドライバIC事業からの撤退を決定



まとめ

- 2012年3月期第3四半期業績は、市況の悪化等により売上は計画を下回るも、損益は前四半期比改善
- 通期の業績予想については、市況悪化の継続やタイ洪水影響の顕在化などにより、売上、損益ともに下方修正
- 安定的に利益を出せる事業体質を目指した構造対策を引き続き推進すると共に、市況の回復を的確に捉え、早期の業績回復を目指す

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略及び業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、(1)ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。



ルネサス エレクトロニクス株式会社

© 2012 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.